

発明王 エジソン展

— 知られざる天才の軌跡 —

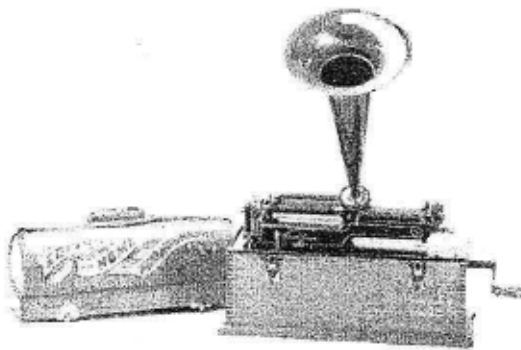
かがくはくぶつかん
科学博物館では10月27日(土)から12月2日(日)まで、三大発明といわれる、ちく音機、白熱電球、キネトスコープ(映写機)のほかに、産業機器や家庭電化製品など広い分野にわたり1,093件の特許をとった、トーマス・アルバ・エジソン(1847-1931)の発明品などを紹介する特別展「発明王エジソン展」を行っています。
ここでは、エジソンの三大発明品についてお話ししましょう。



ちく音機(フォノグラフ)

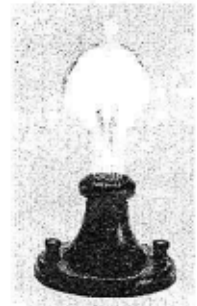
1877年、30才の時、エジソンは音の録音と再生ができる装置「ちく音機」を発明しました。録音や再生は現在の円盤式ではなく、円筒形のレコードを使っていました。

エジソンが、その製作に最も情熱をかたむけていたといわれています。



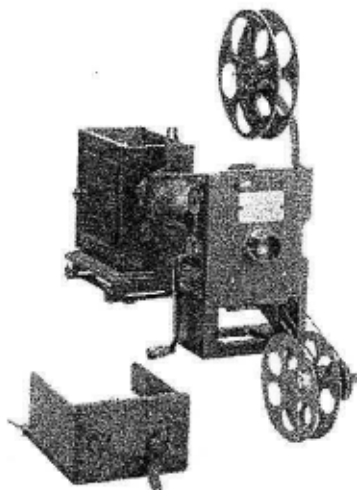
白熱電球

1879年にもめん糸を炭化したものをフィラメントにして40時間の間、明かりをつけることに成功しました。その後、もっと長持ちするフィラメントの材料を見つけるため実験をくりかえした結果、「京都の竹」がもっとも長持ちすることがわかりました。竹を使った電球は1,000時間以上明かりをともし続けました。



キネトスコープ(映写機)

1887年に研究を開始し1891年に発明しました。最初のものは、のぞきメガネ方式で一人で見えるものでした。写真はスクリーンに映しだし、おおぜいの人で見えるようにしたものです。



よしむら ひろよし
吉村 博儀